

ウェブアクセシビリティ基盤委員会

JIS X 8341-3とは何なのか？

「ウェブコンテンツ」のアクセシビリティのために



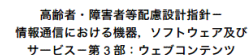
ウェブコンテンツの アクセシビリティについての規格

正式名称

- **高齢者・障害者等配慮設計指針 情報通信における機器，ソフトウェア及びサービス 第3部：ウェブコンテンツ**

対象

- JIS X 8341-3は、「ウェブコンテンツ」のアクセシビリティの規格



JIS X 8341-3 : 2013
(ISO/IEC 40500 : 2012)
(JANIS/ISA)

平成 28 年 3 月 22 日 改正
日本工業標準調査会 審議
(日本規格協会 発行)

© 2000 Blackwell Science Ltd *Journal of Internal Medicine* 247: 399–406

「ウェブコンテンツ」とは？

「コンテンツ」とは何か

「コンテンツ」とは、伝えたい中身（情報や表現）のこと

媒体	コンテンツの該当箇所
新聞なら	記事や写真が「コンテンツ」
テレビなら	番組そのものが「コンテンツ」
本なら	文章や図版が「コンテンツ」

コンテンツとは「誰かに伝えるために作られた中身」そのもの

「ウェブコンテンツ」とは何か

ウェブサイトやアプリの中にある**情報**

- 文章、写真、動画、音声、図表、アイコン、地図 など
だけでなく

操作する部分もコンテンツ

- ボタン、メニュー、リンク、フォーム入力欄

「情報」も「操作する部分」も、利用者にとってはすべてコンテンツ

「ウェブコンテンツ」の例: ウェブサイト(1/2)



— アドレス入力欄やタブ

— スクロールバー

ウェブコンテンツではない

「ウェブコンテンツ」の例: ウェブサイト(2/2)



じつはここもコンテンツ

こういう部分も規格の対象となるコンテンツ

本文は当然、コンテンツだが……

規格の対象でないもの

物理的な対象はJIS X 8341-3では取り扱いません。

例:

- PC本体
- スマートフォン本体の電源ボタン
- ATMの物理テンキー
- キオスク端末のボタンの配置や高さ

これらの対象は8341-3以外の8341シリーズでカバーされることがあります。

「コンテンツ」は アクセシビリティを構成する要素の1つ

「コンテンツ」だけがアクセシブルでもユーザーには届かないことがある

- 端末がアクセシブルである
(物理。ボタンやスイッチの使いやすさなど)
- OS、ブラウザがアクセシブルである
(基本システム、アプリケーション)
- **コンテンツがアクセシブルである (ウェブコンテンツ)**

JIS X 8341-3はここ

規格の内容

4つの原則

アクセシブルなウェブコンテンツを作成するルールを、大きく4つに分類

原則	原則の概要
1 知覚可能	見ることができる / 聞くことができる / 感じることができる
2 操作可能	選択できる / 決定できる
3 理解可能	内容がわかる / 混乱させない / 操作方法がわかる
4 堅ろう（牢）	さまざまな端末で利用できる

12のガイドライン

4つの原則それぞれに対応した、12のガイドラインとして
細分化

1.1 代替テキスト

2.1 キーボード操作可能

3.1 読みやすさ

1.2 時間依存メディア

2.2 十分な時間

3.2 予測可能

1.3 適応可能

2.3 発作の防止

3.3 入力支援

1.4 判別可能

2.4 ナビゲーション可能

4.1 互換性

次期規格では「2.5 入力モダリティ」が加わる予定

原則 1. 知覚可能

4つのガイドライン

ガイドライン	ガイドラインの概要
1.1 代替テキスト	画像の代わりになる説明文の提供
1.2 時間依存メディア	動画や音声をみんなが理解できるようにする
1.3 適応可能	利用者がコンテンツを様々な形で利用できる
1.4 判別可能	視覚・聴覚における明瞭性を確保する

原則 2. 操作可能

4つのガイドライン

ガイドライン	ガイドラインの概要
2.1 キーボード操作可能	全ての操作がキーボードでできる
2.2 十分な時間	理解や利用に時間のかかる人がいる
2.3 発作の防止	てんかんなどの発作の防止
2.4 ナビゲーション可能	現在位置の把握や目的地にたどり着けること

原則 3. 理解可能

3つのガイドライン

ガイドライン	ガイドラインの概要
3.1 読みやすさ	テキストのコンテンツを読みやすく
3.2 予測可能	表示や挙動を予測可能にする
3.3 入力支援	利用者の間違いを防ぎ、修正を支援する

原則 4. 堅ろう（牢）

1つのガイドライン

ガイドライン	ガイドラインの概要
4.1 互換性	将来、登場する技術にも対応できるようにする

達成基準

アクセシブルなウェブコンテンツを作成するルール
達成基準の総数は61個（改正で26個増の予定）

達成基準には、それぞれに以下の3つの適合レベルが設定されている

- 適合レベルA（シングルエー）
この規格における最低限のアクセシビリティを確保するために
守るべき基準
- 適合レベルAA（ダブルエー）
国内外の公的機関が一般的に満たすことが求められている
- 適合レベルAAA（トリプルエー）
適宜採用することでアクセシビリティを高めることができる

適合レベルの考え方

各達成基準のレベルは、以下のような指標を用いて定められている

- 必要不可欠かどうか（支援技術でアクセシブルにできるか）
- さまざまなウェブサイト及びコンテンツがこれを満たせるか
- コンテンツ制作者が無理なく必要なスキルを習得できるか
- 見た目や機能に制限がかからないか
- 基準が満たされないときに、次善策があるか

など

規格票に書いていないこと

具体例が書かれていません

文書	文書の概要
WCAG 2.x解説書	原則・ガイドライン・達成基準の理解を深めるための副読書
WCAG 2.xテクニック集 (旧「WCAG 2.x達成方法集」)	HTML、CSS、JavaScript、PDF などについて、「どう作ればアクセシブルになるか」の具体例を集めたもの

当委員会のウェブサイト（waic.jp）から無料で閲覧できます

規格の作られ方

3つのガイドライン文書

- **WCAG (Web Content Accessibility Guidelines)**
事実上の標準。ウェブ技術の標準化推進団体W3Cが作成したガイドライン。最新は WCAG 2.2
- **ISO/IEC 40500**
国際規格。WCAG 2 と完全に一致した内容
- **JIS X 8341-3**
日本産業規格。2016年版は2012年版のISOをもとにしている

技術的な内容と構成は同じ→JIS X 8341-3:2016は
ISO/IEC 40500:2012との「一致規格」

一致規格（IDT）であることのメリット

国内外で異なる基準を理解・対応する手間が減じ、
国際的な取引や技術交流での互換性・信頼性が高まる

- 規格が一致しない場合、海外のサービスを日本に導入する際に追加対応が必要になる場合がある
→ 非関税障壁という
- WTO（世界貿易機関）は国際規格を基礎として原案を作成することを求めている

JIS X 8341-3改正のプロセス

原則、5年に1回の見直し

「改正原案作成団体」と呼ばれる団体を中心となって改正案を作成
ISO/IEC 40500 が2025年に改訂されたため、これを受けて改正

- 2027～2028年にJIS改正の予定
- 大きな問題がなければ、ISOとの一致規格となる見込み

JIS X 8341-3規格内容へのご意見

JISの改正時にはパブリックコメント（意見受付、パブコメ）が実施されることになっている

ISO/IECやWCAGとの一致が原則であるため、抜本的な変更は難しいことがある

元規格への意見として、直接W3Cへ随時コメントすることも可能

まとめ

まとめ

- JIS X 8341-3はウェブコンテンツのアクセシビリティ
 - ブラウザや端末のアクセシビリティは重要だが対象外
 - ウェブコンテンツは情報の内容、リンク、ボタンなどを含む
- JISには4つの原則、12のガイドライン、61の達成基準が掲載
 - 達成基準はA～AAAの適合レベルが設定されている
- 副読書 (解説書、テクニック集) を waic.jp で閲覧できる
- JIS X 8341-3:2016はISO/IEC 40500:2012との一致規格、WCAG 2.0と技術的に同等
- 規格改正時にパブコメの受付がある

おわり

この動画についての問い合わせ先
ウェブアクセシビリティ基盤委員会
<https://waic.jp/contact/>